

平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成27年4月21日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語	118人	社会	118人	数学	117人
	理科	117人	英語	117人		

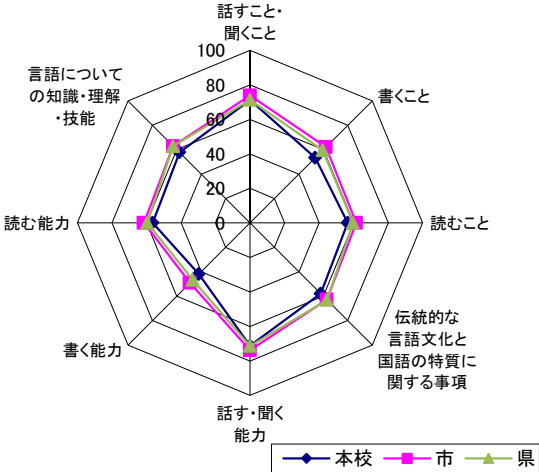
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	71.2	73.8	71.3
	書くこと	53.4	62.2	59.6
	読むこと	56.6	61.5	59.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	58.0	62.9	63.1
観点	話す・聞く能力	71.2	73.8	71.3
	書く能力	41.9	49.2	46.8
	読む能力	56.4	61.5	59.6
	言語についての知識・理解・技能	57.8	62.9	62.9



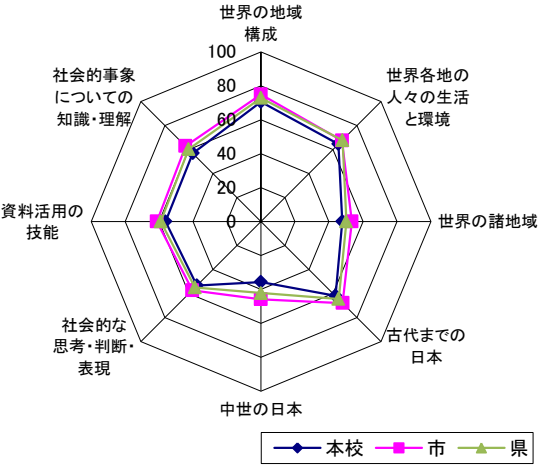
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○出された意見をよりよくするための意見を、適切に述べるができる。 ●聞き手に理解してもらうための話の構成や話し方の工夫をしていくことが課題である。	・話し手の意図をメモをとりながら正確に聞き取ったり、自分の意見を述べるときには、話の構成や話し方を工夫しながらわかりやすく話す場面を授業の中に取り入れてたくさん体験させていく。
書くこと	●詩の表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題が見られる。	・自分の意見や感想などを書くとき、根拠をはっきりさせて書かせるようにさせる。
読むこと	○文章の展開に即して内容をとらえたり、文章の構成をとらえることができる。 ●文章の内容を整理し、要旨をとらえることに課題が見られる。	・文章の読み取りにおいて、場面や段落ごとに要旨をまとめる機会を設けるようにしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読みで「根拠」「互い」「滅びる」についてはよく読むことができる。 ●漢字の書きで「負傷」「重圧」「祝う」「納める」についてはよく書くことができなかった。また、歴史的仮名遣いの理解についても課題が見られる。	・授業の最初には漢字の書き取りテストを行い、漢字力向上に努めている。歴史的仮名遣いについても、2学期の古文の授業で繰り返し指導していく。

宇都宮市立城山中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	70.4	74.8	72.8
	世界各地の人々の生活と環境	64.5	67.5	67.8
	世界の諸地域	47.9	53.4	50.2
	古代までの日本	62.0	68.0	64.6
	中世の日本	35.6	45.8	42.2
観点	社会的な思考・判断・表現	53.4	57.3	55.0
	資料活用技能	56.3	61.4	59.1
	社会的な事象についての知識・理解	56.8	62.9	60.3



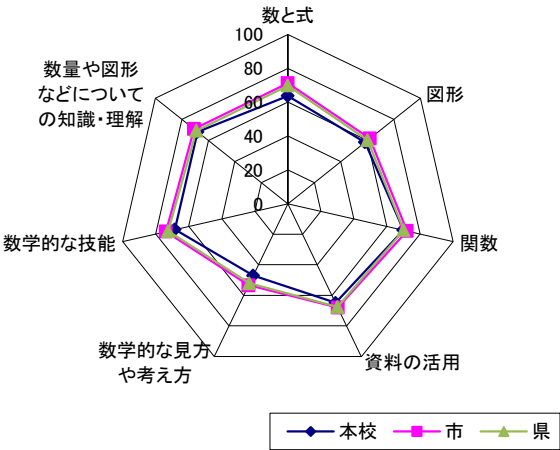
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○赤道についての理解やさまざまな様々な世界地図の活用については、概ね良好である。 ●経度と緯度の理解をもとにした地図の読み取りは、前年度の校内正答率を上回ったものの、県・市を下回っている。	・位置を緯度や経度できちんと表現できるようするために、授業の中で地図帳を用いて調べる機会を増やしていきたい。
世界各地の人々の生活と環境	○世界各地の人々の生活の様子については、概ね正しく判断することができる。 ●世界各地の人々の住居については、前年度の校内正答率を上回ったものの、県を下回っている。	・雨温図や写真、主題図など様々な資料をもとに、多面的・多角的な考察ができるようにしていきたい。
世界の諸地域	○ヨーロッパ連合（EU）の現状について、複数の資料を読み取って考察し、説明することは、県平均正答率を5ポイント以上上回っており良好である。 ●気候についての理解が不十分である。	・気候に影響を与えている原因を踏まえ、世界各地の気候の特徴について、機会あるごとに確認していきたい。
古代までの日本	○聖徳太子など歴史上の人物が行ったことについては、概ね理解している。 ●発源地と伝播の様子を表した地図から、その宗教が仏教であることの読み取りが不十分である。	・歴史的分野の授業でも歴史の舞台を調べるなど、授業の中で地図帳を用いて調べる機会を増やしていきたい。
中世の日本	●年代の表し方については、前年度の校内正答率を上回ったものの、県を下回っている。	・年代のあらわし方については授業の中で、その都度繰り返し指導していきたい。

宇都宮市立城山中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	63.7	71.2	69.8
	図形	58.2	61.9	60.2
	関数	70.0	72.1	70.1
	資料の活用	64.9	68.0	67.6
観点	数学的な見方や考え方	47.1	53.4	52.1
	数学的な技能	68.5	73.8	72.5
	数量や図形などについての知識・理解	68.1	70.8	69.1



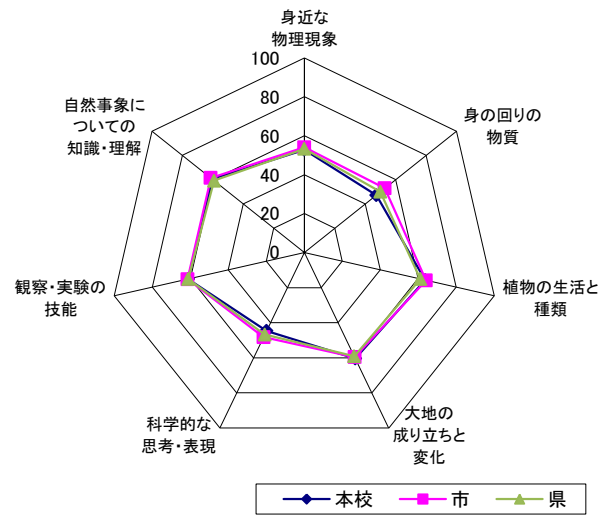
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	この領域は県平均正答率に対して、特に低い。 ●文字式では、文字式で同類項をまとめることや、文字式と数の乗法の計算をすること、数学的に表現された結果から、事柄が成り立つ理由を筋道立てて説明することができることに課題が見られる。 ●1次方程式では、小数を含む1次方程式を解くこと、文章から1次方程式を立式することに課題が見られる。	・今後、授業の中でつまづきそうな計算が出てきた場合は、適時計算の仕方を必要に応じて説明するなどして確認していく。また、日常生活の中にある数学的事象を取り上げて、問題を与えて、思考力を高めていく時間を確保するようにする。 ・文章から立式する問題を、小テスト等でも取り入れて、またヒントなどを与えながら、問題演習を行わせていく。
図形	この領域は県平均正答率に対して、概ね等しい。 ○球と円柱の体積について、正しい関係を選択することが県平均正答率に対して、5.3ポイント高い。 ●角の二等分線を作図をすることに対して、県平均正答率よりも6ポイント低い。また、円柱の展開図から、その側面積を求める式を選択することに対して、県平均正答率よりも6.6ポイント低い。	・作図用具をきちんと準備させた状況で、いろいろな作図をさせながら、正しい作図方法を身に付けていく。また、問題を解決する上で、必要に応じて展開図をかかせ、側面積などを計算式で求めることができるヒントとしていきたい。
関数	県平均正答率とほぼ等しい。 ○反比例の関係を表す表を選択する問題では、県平均正答率よりも9ポイント高い。 ●比例のグラフを利用して、目的地に着くまでの時間を求める問題には課題が見られた。	・「速さ、道のり、時間」の関係でつまづいている場合は、その関係を随時確認しながら、グラフを利用すると容易に解決する場合があることに気付かせたい。また、事象をグラフで表す練習も行っていく。
資料の活用	この領域は、県平均正答率よりもやや低い。 ○度数分布表から度数を求めたり、あてはまる階級を求めることなどの問題の正答率が高い。 ●資料の傾向を的確に捉えて、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題に対しては、他の問題と比べて、正答率が低い。	・時には言語活動を通して、数学的に表現された事象を、一つの解答方法にこだわらず、いろいろな資料の読みとり方があることを理解させ、様々な考え方・判断があることを学ばせていく問題演習を行っていく必要がある。

宇都宮市立城山中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	52.8	54.0	53.3
	身の回りの物質	47.3	52.9	50.0
	植物の生活と種類	63.7	64.1	61.1
	大地の成り立ちと変化	60.4	59.6	59.1
観点	科学的な思考・表現	44.7	48.2	46.7
	観察・実験の技能	61.1	61.5	61.1
	自然現象についての知識・理解	60.5	61.4	59.2



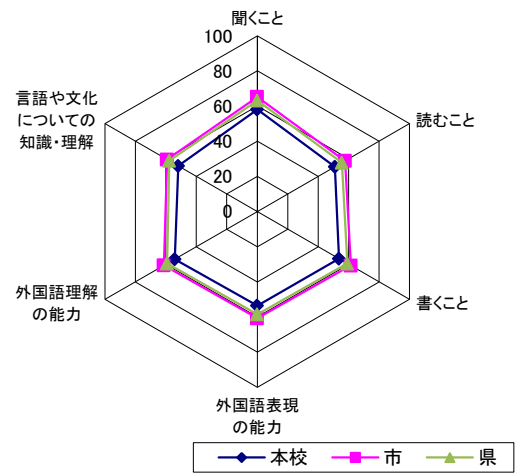
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○酸素の発生方法やルーベの使い方など実験・観察の基本操作については県の正答率を10ポイント程度上回っている。 ●重さと質量の違いから、地球上と月面上での上皿天秤とばねばかりのようすを推測する問題では、県の正答率を5ポイント程下回っている。	・知識・理解や実験・観察の技能では、習得率が高いが、それをもとに推測したり考察したりすることが苦手なので、表面的な知識だけでなく、その理由や原理から理解させるような指導を重視していく。
身の回りの物質	○密度の大きさから水への浮き沈みを判断したり、密度を求めることで物質の種類を特定する問題では、正答率70%程度で県の正答率を若干上回っている。 ●水溶液の質量パーセント濃度を求めたり、濃度を半分にする方法を推測問題では、正答率は20～30%で県の正答率を5ポイント程下回っている。	・計算問題を演習する時間を増やすなど、知識を活用する能力を身に付けさせるような指導をする。また、粒子モデルと関連付けて指導するなど、見えない現象を可視化して考えさせる指導を重視する。
植物の生活と種類	○植物の根から吸収された水が、茎のどの部分を通るかなど植物の体のつくりに関する問題や、実験結果の比較から、植物の葉の蒸散量を求める問題の正答率は県の正答率を10ポイント程上回っている。 ●顕微鏡を正しい手順で使う問題の正答率は、昨年より6ポイント、県の正答率からも6ポイント下回っている。	・顕微鏡の正しい使い方について、もう一度復習し確認させるとともに、顕微鏡を使う機会を増やしたり、個別に使用させるなどして実験技能を高めるような指導をしていく。
大地の成り立ちと変化	○マグマの粘性と火山の形の関係では、正答率は80%を超え、県の正答率を10ポイント程上回っている。また、地震によって発生した2種類の波の伝わり方でも、県の正答率を5ポイント程上回っている。 ●柱状図の比較から地層が堆積した順序を推測する問題では、県の正答率を5ポイント程下回っている。	・与えられた資料を活用し、推測したり、考察したりする力が不足していると思われるので、実験の結果や既習の知識を活用して考察する場面を多く持つような指導をしていく。

宇都宮市立城山中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	58.0	65.2	63.2
	読むこと	51.0	57.6	55.6
	書くこと	53.7	61.4	59.2
観点	外国語表現の能力	53.6	60.7	58.4
	外国語理解の能力	54.2	61.3	59.2
	言語や文化についての知識・理解	51.9	59.2	57.8



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○ まとまりのある英語を聞いて、その内容を聞き取ることができる。 ● 対話文を聞いて、求められた情報を聞き取る問題、質問に対する適切な応答をする問題については、正答率が非常に低く、半数以上の設問で県の正答率を5ポイント以上下回っている。特に、疑問詞を用いた質問に対応できない生徒が多く、前年度正答率から-23.5ポイント下回る問題もあった。	・授業での問題演習の機会を増やし、解答・解説を通して、英文のどの部分を聞き取ると良いかなど、聞き取るポイントを確認していく必要がある。
読むこと	● ほとんどの問題において県の正答率を下回っている。特に、対話文の内容を読み取る問題、対話文とグラフなど、複数の資料から情報を読み取る問題に課題が見られる。	・物語や説明文、対話文やグラフなど、多様な英文に触れさせ、全ての英文をただ和訳するのではなく、問題に応じて必要な情報を「読み取る」力を問題演習を通して養う。 ・対話ならではの英語表現を確認する。
書くこと	● ほとんどの問題において県の正答率を下回っている。一般動詞の否定文の語順に関しては、昨年度の正答率を10ポイント以上下回っている。また、条件英作文についても県の正答率を10ポイント近く下回っている。	・肯定文から疑問文、否定文への変化、連語など、文の組み立て方の確認が必要である。 ・テーマに基づいた英作文では、自分の書ける範囲で文を考えていく必要があり、日頃から授業内で文章を考える練習をしていきたい。

宇都宮市立城山中学校 第2学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

・家で学校の宿題をしているという問いや、学校の宿題は自分のためになっているという問いに対する肯定的な回答(はい どちらかといえばはい)の割合は88ポイントと高くなっている。しかし、予習をしていると答える割合は、39.7ポイントとなり、市平均50.5 県平均47.5と比べても低くなっている。

・友達と話し合うとき、友達の意見を最後まで聞くことができているという問いに対しての肯定的な回答は90.5ポイントと高くなっているが、一方で自分の考えや意見を発表することは得意だという問いに対しては31.9ポイントとなり、市平均42.6 県平均41.3と比べても低い。

・学校の決まりを守ろうとする意識は高い。

・毎日朝食を食べてくるが、90.5ポイントであり習慣化されている。